作成日：2026 年 4 月 5 日

当院における経腟的内視鏡手術（vNOTES）による子宮全摘出術の安全性と有用性の後方視的研究のご協力のお願い

私たちは子宮全摘術をよりよい方法で行うことを目指して下記の研究を実施しています。本研究では当院産婦人科で経腟的内視鏡手術（以下 vNOTES）による子宮全摘術、または腹腔鏡下子宮全摘出術(Total Laparoscopic Hysterectomy:TLH)を施行された方の臨床情報や治療内容、治療期間を振り返り研究することで、よりよい医療の提供を行うこと、医学の発展に寄与することを目的としています。本研究は京都医療センター倫理委員会の審査・承認を受け、病院長の許可を得ています。

1. 研究課題名

当院における経腟的内視鏡手術（vNOTES）による子宮全摘出術導入への取り組み

2. 研究の概要

［対象］

当科にて 2024 年 10 月から 2025 年 5 月までに、子宮頸部高度上皮内腫瘍（HSIL）や粘膜下子宮筋腫（SMM）などに対して vNOTES による子宮全摘出術を施行させていただいた方と，同時期に腹腔鏡下子宮全摘出術(Total Laparoscopic Hysterectomy:TLH)を施行させていただいた方を対象としています。

［方法］

対象者の年齢、病名、治療内容、治療期間などを後方視的に検討いたします。

［研究期間］

倫理委員会承認日から 2027 年 3 月 31 日（約 1 年間）まで。

3. 研究組織

この研究は当院のみで行われます。

［研究責任者］

独立行政法人　国立病院機構　京都医療センター　産婦人科　濵西潤三

［研究担当・分担者］

日下部智紀，天野泰彰，仲井千裕，住永優里，伊田昂平，河合香奈，元木貴裕，岸本尚也，寒河江悠介

4. 試料・個人情報管理について

本研究で使用されるカルテ情報には患者さんの個人情報が含まれます。研究ではこれらから氏名、住所などの個人を特定できる情報は全て削除し、研究用の番号をつけて管理します（匿名化）。また、この情報が必要な場合（研究参加への同意の取り消し、診療情報との照合時など）に研究用の番号と結び付けられるように対応表を作成し、この対応表は研究責任者が厳重に管理をします。

5. 研究結果の公表と公的データベースへの登録について

研究の結果は学会発表や学術雑誌を通じて公に発表されることがあります。その際にも個人情報は保護されます。

6. 同意の取り消しについて

本研究への参加は対象者への自由意志によるものです。ご自身の情報を使用してほしくない場合には、これを拒否することが可能です。その場合も不利益を被ることはありません。研究同意の取り消しを希望された場合、該当する情報について調査し、当院での使用を停止します。

7. 研究資金・利益相反について

本研究は公的資金からの研究費を得ていません。本研究実施にあたり、利益相反はありません。

8. 本研究について詳しい情報が欲しい場合

この研究について何かわからないことや心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

・本研究課題についての相談窓口

国立病院機構　京都医療センター　産婦人科　濵西潤三

電話：075-641-9161